学校清掃の現状と課題
―黙って掃除を行う指導に注目して―

表　　真　美
（教育学科教育学専攻）

児童生徒が行う学校清掃は戦前から継続して行われているが，小学校学習指導要領に位置づけられたのは平成20年以降，中・高等学校では位置づけがない。学校清掃への批判は，「無言清掃」がマスコミで多く取り上げられるようになってからより広がりをみせている。そこで本研究では，無言清掃の現状と課題を明らかにするために，小・中学校５校への訪問調査を行った。全国の多くの小・中学校が実施しているが，一括りに「無言清掃」として論ずることのできない多様な実践が見られることが分かった。今回の調査では，歴史的に継続して実施している例，「自問教育」という理念に基づいて実践する例，学校の「荒れ」解決のため取り入れた例が見られ，一定の効果を得ていることがうかがわれたが，いずれも教師の負担が大きいことが明らかになった。

キーワード：学校清掃，小学校，中学校，無言清掃

１．研究の背景と目的

⑴　日本文化，仏教と清掃

我が国では，年末の「すす払い」などが年中行事として守り継がれており[1]，剣道，茶道などの武術や稽古事の稽古の前後には，稽古場の清掃が重んじられる。社員教育に清掃を取り入れる企業もみられる[2]，スタジアムで清掃をする日本人や，球場のごみを拾う日本人野球選手の行動が世界的に注目された[3][4]。

また，禅宗では，日々の掃除に真剣に取り組むことは，どんな修行にもまさる「一掃除二信心」との教えがある。「人が嫌がるところ」や「人から見えないところ」こそ，自分の心が映ると考えて掃除を続けると掃除に限らずあらゆる行動にその心がけが表れると言われ，禅寺では雑巾がけを基本に毎朝掃除が行われる[5]。

「心を磨く」といった表現により掃除と精神性を結び付ける風潮は，仏教を起源とする我が国特有の文化であり，学校清掃との関連が考えられる。

⑵　学校清掃の歴史

寺子屋の掟書，また大正期に全国の寺子屋に在籍した経験を持つものを対象とした調査から，一部で寺子による掃除が行われていたことが明らかとなった[6]。

明治６年文部省の指図に従って東京師範学校が作成した「小学校教師の心得」には，学校を清潔に保つのは教師の義務とされていたが，就学児童の拡大と，それに見合う清掃要員を雇用しえない学校財政の貧困さにより学校清掃が始まったと言われている[7]。明治中期からは感染症の蔓延から「学校衛生」の重要性が高まり，学校清掃に影響を及ぼした[8]。明治39年に出された「学校清潔法」に関する文部次官通牒には，学校現場では児童・生徒が掃除をすることが前提として述べられていた。そのような中，大正２年，香川県知事が自身の娘の小学校入学直前に児童による学校清掃を禁止したことをきっかけに，児童に学校掃除をさせることの是非が新聞や教育雑誌を舞台に議論された。学校側は「勤労の精神や訓練」という面において児童による掃除は教育効果があるとした一方，医師会は衛生面重視により反対した。掃除夫を雇う経費負担という背景もあったとされる[9]。

昭和33年の小・中学校学習指導要領の「総則」および「道徳」は「教室内外の整とんや美化」「身のまわりを整理・整とん，環境の美化」に言及したが，「児童生徒による学校清掃」の明確な位置づけはなかった[10]。

⑶　学校清掃の学習指導要領への位置づけ

教育的位置づけがなかった児童生徒による学校清掃が，学習指導要領に明示されたのは平成20年のことである。平成元年告示小学校学習指導要領「特別活動」４領域の１つ，「学級活動」に含まれる「日常の生活や学習への適応及び健康安全」は６項目だったが，平成20年には「清掃などの当番活動等の

役割と働くことの意義の理解」の１項目が加えられ７項目となった[11]。平成29年告示の学習指導要領では，「一人一人のキャリア形成と自己実現」の「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として，「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し，社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。」との記述が見られる[12]。

小学校学習指導要領解説特別活動編において清掃活動は，キャリア教育だけではなく，児童会活動における委員会活動（環境美化），学校行事における勤労生産・奉仕的行事の活動例（校内美化活動，地域社会の清掃活動，公共施設等の清掃活動）として挙げられている[13]。

中・高等学校でも学校清掃が日常化しているが，学習指導要領には明記されていない。しかし，文科省が作成した「学校環境衛生管理マニュアル」の「大掃除」の項目には，「清掃については，児童生徒等により日常的に行われるものであるが，定期的に大掃除を行い，日常できない部分まで清掃を行う。」（下線は筆者による）とあり，児童・生徒による学校清掃を自明のこととしている[14]。また，学校清掃を教育の主眼とする小・中学校は少なくなく，福岡市教育委員会は，「福岡スタンダード」３本柱の第１の柱として「生活習慣の柱：あいさつ・掃除」を挙げている[15]。

⑷　学校清掃と生徒指導，生活指導

学校清掃が学習指導要領に位置付けられた平成20年前後には，学級経営のノウハウの中に学校清掃を取り上げた著書が多く出版された。また，清掃の指導により学校の荒れに対応したことを語る著者は，年代に関係なくみられる。例えば，山広康子による『やればできるんよ・女性校長・学校改革1000日』[16]や，掃除の指導により広島県の少年非行や学校の「荒れ」がおさまった実録が報告されている[17][18]。

学校を変えて学びの効果を上げるためには「教室，学校全体を生徒にとってもっと居心地の良い空間」にすることが重要であり，自分たちの教室を「学びやすく，生活しやすく，美しく」することは「クラスづくりの極意」の一つとされる[19][20]。生活指導を長年経験した吉田順は「ゴミは荒れとともにやってきて，荒れとともに去った」「教室をきれいにしておく指導ができる人の学級は，落ち着いた環境をつくれて荒れにくい」と述べている[21][22]。

福井県の学力が高く保たれている要因の一つとして，無言清掃により学校の規律が守られていることを挙げる例がある[23]。また，福井県の中学校への取材では，教育効果の要因は無言清掃を含む「礼の心の育成」以外によるものもあるとしながらも，「（清掃による）生徒たちの心の育ちが強く感じられた。」と報告されている[24]。

⑸　学校清掃への批判

前項から，学校清掃の生徒指導への効果がうかがわれるが，児童生徒が行う学校清掃に対し，清掃を「苦役」とする見方，また衛生面からの批判は第２次世界大戦後も続いた。掃除を卑しいものととらえる掃除観，学校は学習の場という学校観や合理主義，また，雇用確保などの理由から，欧米の学校では，児童生徒自らが学校を清掃する例が見られないことが，学校清掃への批判の要因と考えられる[25][26]。

現在，再び学校清掃へ批判が向けられている。規律を重んじる児童・生徒への管理教育であり，清掃活動を「心を磨く」といった言葉にすり替えて，労働を児童・生徒に強制しているといった意見である[27]。憲法学者の木村草太は対談の中で，学校掃除が「苦役からの自由」（憲法18条）」に反する恐れがあると述べている[28]。また，「無言清掃」がマスメディアでとりあげるようになってから，学校清掃への批判はさらに広がりを見せている[29][30]。「客観的には「無言清掃」の教育的効果など，論じるに値しないばかばかしい話」であり，地域への広がりは「従順な地方を育てる」との見方がある[31]。また，無言で学校清掃を行うことは「コミュニケーションの機会を奪う」との批判もある[32]。

⑹　家庭科・家事科における清掃に関する教育

小学校学習指導要領において，「学校清掃」とともに，「清掃」を内容に含むのが家庭科である。平成29年告示小学校学習指導要領において，「家庭」の内容「Ｂ衣食住の生活」には「住まいの整理・整頓や清掃の仕方を考え，快適な住まい方を工夫すること。」とされている[33]。同解説家庭編には，「住まいの清掃の仕方については，児童が日常よく使う場所を取り上げる。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し（後略）」と述べられている[34]。

第２次世界大戦前の高等女学校家事科検定教科書を分析した研究では，対象とした49種中47種に掃除に関する記述があり，掃除は「家屋の保存上」「衛生上」「児童，子女の教育上」「修養上」「健全な家風を保つ」ために重要との記述が見られた。掃除と精神性を結びつける内容が，特に戦時体制下では強調されることが明らかになった[35]。

⑺　研究の目的

以上，清掃は仏教において修行の一部とみなされ，自身の身の回りを自身で清掃し綺麗にすることは日本の文化ともいえる。学校でも児童生徒による清掃が行われ，小学校教育には家庭の清掃に関する内容も含まれている。しかし，管理教育や児童労働の観点から，学校の児童生徒による清掃，特に黙って行

う清掃を指導する「無言清掃」に注目した批判が広がっている。今後，学校清掃をどのように扱っていくのか，詳しく検討する必要があるだろう。そこで本研究では，黙って掃除を行う指導を実践する学校を訪問調査し，無言清掃の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

２．研究方法

本研究では，2020年２月～３月に，小学校２校，中学校３校を訪問し，児童生徒，教師による学校清掃を視察，校長，教頭，清掃担当，生活指導担当教師に対し聞き取り調査を行った。

⑴　愛媛県宇和島市立Ａ小学校

2020年２月27日に訪問，学校長に聞き取り調査を行った後，清掃の様子を視察，清掃担当の教師に聞き取り調査を行った。当校は教員数約30名，児童数約450名規模の学校である。

⑵　愛媛県北宇和郡鬼北町立Ｂ小学校

2020年２月28日に訪問，学校長に聞き取り調査を行った後，清掃の様子を視察，清掃担当の教師に聞き取り調査を行った。当校は教員数約20名，児童数約240名規模の学校である。

宇和島市の小学校２校を訪問したのは，愛媛県出身の学生から，愛媛県では伝統的に多くの小・中学校が無言清掃を行っているとの情報を得たためである。宇和島で小学校教師をする２名の卒業生に尋ねたところ，両者とも勤務校が無言清掃を実践しているとのことであったので，訪問調査を依頼した。

⑶　長野県北安曇野郡池田町立Ｃ中学校

2020年２月20日に訪問，教頭先生に「自問教育」「自問清掃」に関する聞き取り調査を行った。当校では自問清掃は実践されていないが，無言清掃の実践を進める「自問教育の会」の本部であり，教頭がその事務局を担当していたため，調査を依頼した。

⑷　長野県松本市立Ｄ中学校

2020年２月21日に訪問，清掃担当教員に聞き取り調査を行った後，清掃の様子を視察した。「自問教育の会」事務局である上記Ｃ中学校の教頭から紹介され，学校訪問が実現した。

Ｄ中学校は教員数約30名，生徒数約330名規模の学校である。後述のように，教育の柱に「自問教育」を据えており，これまで「全国自問教育の会」の会場校となるなど，自問清掃の視察を受け入れている学校である。

⑸　福岡市立Ｅ中学校

2020年３月３日に訪問，清掃担当の教師，生活指導担当教師に聞き取り調査を行った。Ｅ中学校は教員数約35名，生徒数440名規模の学校である。訪問当日は既に新型コロナ感染拡大による休校中で生徒が登校していなかったため，始業前に行われていた教師による学校清掃を視察した。当校は新聞記事に生徒の清掃の様子が紹介されていたため，調査を依頼した[36]。

３．研究結果

⑴　無言清掃を行う小・中学校

全国の多くの小・中学校のHPの学校案内には，無言で行う学校清掃の取り組みが紹介されている。小学校では「もくもく掃除」との名称が多いほか，「サイレント掃除」との呼び名も使われている。

例えば，学校HPに公開されている岐阜県多治見市立小学校の令和３年１月の校長による学校報には「“もくもく掃除”を活動の四本柱に位置づけて，伝統化しようと取り組んでいます。」とある。「「掃除で心は育つ」のか？「掃除が変わると学校は変わる」ものなのか？」という前述のような無言清掃への批判の問いに対して，「集中力がついた。」「進んでゴミを拾い，環境をきれいにしていく人（になりたい）。」など，５，６年生によるキャリア教育ポートフォリオの記述を用いて答えている[37]。

⑵　宇和島市立Ａ小学校の学校清掃

１）Ａ小学校校長先生への聞き取り調査

校長によると，昭和50（1975）年前後の自身が中学生だった際も，しゃべっているということは清掃をしていないことで叱られたので，中学生のころから清掃は「静」のイメージを持ち続けている。

子どもたちにはそれほど強く指導はしていないが，何度も繰り返して言っている。清掃担当の先生が，場所により道具を工夫するなどして指導を行っている。

保護者の学校清掃への反応は，クレームもほめることばはない，おそらく地元の人が多いので，自分自身もこのような清掃を実践してきたから当たり前のことと捉えているのであろう，とのことであった。

２）Ａ小学校における無言清掃の実践

給食の時間終了後の13時55分に予鈴があり，児童は各集合場所に移動，20分から清掃が開始され，15分間清掃を行っていた。児童は，教室では机を移動させ，膝をついて大変丁寧に床の雑巾がけを行っていた。清掃終了後はグループごとに反省会が行われていた。昇降口など汚れやすい場所も清掃が行き届き大変綺麗であった（写真１）。

清掃担当教師によると，１年から６年生までの縦割りのグループ編成を掃除担当の教師が行う，担当場所，担当グループは掃除担当の教員が学年初めに決定し，担当場所は学期ごとにローテーションしている，１年生は最初に雑巾の絞り方，雑巾がけの方法などを指導し，清掃後は毎日反省会を行う，との

写真１　Ａ小学校の廊下清掃の様子

ことであった。

毎年作成される教師向けの学校清掃についての説明書「清掃活動について」には，目標（清掃始動を通し，生徒指導の充実を図る。美しく清潔な学校を作るため，協力して作業を行う喜びを体得させ，責任・奉仕・勤労を尊重する態度を養う）のほか，活動計画，清掃始動の原則，清掃の仕方，ごみの処理の５項目について，各場所の清掃用具と清掃方法，教師の担当場所，雑巾の取り替えのタイミング等まで，大変詳細に説明されていた。２か月に一度清掃班長会が開かれ，日々の清掃の評価に従って，班長が「おそうじ名人」を決定していた。児童への説明書には，おそうじ名人の目安は，①掃除場所に遅れずにくる，②無駄なおしゃべりをしない，③自分の分担をきちんと行う，④時間いっぱい清掃をする，⑤後片づけをきちんとする。低学年は「自分の役割をきちんと果たす」，中学年は「自分の分担と気づいたところをする」，高学年は「自分の分担と全体を見て不十分なところもする」とあった。また，2020年１月26日発行のジュニアえひめ新聞でＡ小学校４年生による「空っ風雑巾がけはあと10回」という俳句が「はなまるキッズ」に選ばれていた（選者：夏井いつき）。

⑶　鬼北町立Ｂ小学校の学校清掃

１）Ｂ小学校校長先生への聞き取り調査

校長によると，Ｂ小学校では取り立てて「無言」で行う指導はしておらず，無言清掃を意識していないが，学校清掃中は学校が静かになり，子どもたちはしゃべらずに清掃に取り組んでいる。清掃活動が静かなのは伝統であり，言われたことは（自分たちでルールを）決めて行う，聞き分けのよい子どもたちであるので，無言で実践ことが良いことだという思い，無言で清掃している，とのことであった。

２）Ｂ小学校における無言清掃の実践

清掃担当教師によると，Ｂ小学校では清掃するときにわかりやすく覚えやすい頭文字をとった清掃方針，清掃目標を決めている。「ちゃぼすしか」（ちゃ：チャイムで動く，ぼ：赤白帽，す：素早く動く，し：静かに，か：片づけしっかり），「さしすせそ」（さ：さっさ　ととりかかる，し：しゃべらず　しずかに　する，す：すばやく　てきぱき　うごく，せ：せいりせいとん　あとしまつをする，そ：そうじは　すみずみ　ピカピカにする）である。しゃべらずに清掃をするが，お客さんにはいい声を出して挨拶をするように指導している。

１か月に１回班長会が行われ，メンバーと班長は１年，担当場所は１か月ごとにローテーションする。班長がメンバーの毎日の掃除の様子を確認し，掃除担当の先生の賞の推薦をする。賞の１回目は小さいシール，いつもシールをもらっている人は学期ごとに中ぐらいのシール，学期ごとのシールをもらった人は１年で大きなシール（鬼北町のシール）がご褒美にもらえる，とのことであった。

毎日の一人一人の児童の清掃の評価を「さしすせそ」の５項目ごとにチェックする「そうじがんばり表」が月ごとに準備されていた。班長は月ごとに反省を記入，清掃担当の先生の確認を受け，反省が行われていた。訪問当日班長会が行われていた（写真２）毎日の清掃に加えて大掃除も行われていた。

写真２　Ｂ小学校2020年２月の掃除班長会の様子

⑷　自問教育による無言清掃

１）自問清掃について

自問清掃は，長野県の教育者である竹内隆夫が最後の勤務校となった中野市立高社中学校において，校長として，1974年度から２年間にわたって全校規模で実践した独自な清掃指導の理論である。その後各地に広がり，1992年竹内が応募した「自問教育のすすめ」は第41回読売教育賞において，児童・生徒指導部門の最優秀賞を受賞した[38)39)]。自問清掃では，清掃は心を磨く時間と考え，教師は「指示・命令・注意をしない」「褒めない，叱らない，比べない」，また，生徒は「心が整わないときは働くことをやめて休んでよい」ことを指導方針としている。教師の側からの圧力（指示・命令）を一切排除し，自発性の発露を待ち続け，清掃作業は意志力などを高めるための手段と位置付けている。終始自発性をよりどころとすると，「がまん」と「やる気」が育ち，やがて人の心を汲み取る力，所属感，感謝の心，正直

な心が充実する。黙働を約束事として導入するのではなく，自発的に迷惑行為を慎む者が次第に多くなり，その結果としておのずから静かな清掃の姿が出現する，としている[40)41)42)]。

2）自問教育の会

自問教育の会の事務局長はＣ中学校教頭であるが，Ｃ中学校は自問教育を実践していない。

事務局長によると，同会は現在120名くらいに通知を出している。今年度（2019年度）の大会の参加者は47名，長野県の他は，宮崎，山口，岡山，愛知，静岡，石川，栃木等からの参加であった。昭和50（1975）年にスタートし，2005年に出版された平田治による自問清掃に関する著書である『子どもが輝く「魔法の掃除」』の反響が大きく，全国から実践校に視察が相次いだ[43)]。事務局長は，自問教育に新たに取り組む教職員を対象に，職員研修を行っている。現在は指導者の育成が難しく，長野県でも実践していない学校が多い，とのことであった。

事務局長により提供された「卒業目前・今までの自問を振り返って」との生徒の文章には，自問活動により成長した自分の姿を振り返る内容が記されていた。以下に一部を紹介する。「（前略）自問を続けてきて一番私に身についた“力”と言えばやっぱり“気づきの力”だと思います。（中略）自問を始めた当初は，一般的な仕事しかできませんでしたが，いろいろな話を聞いていくうちに，自問以外の場所でも，一つ上をいった仕事ができるようになりました。（後略）」「（前略）自問は人間として成長することが出来る良い機会である。たった15分だが毎日続けることにより着実に力は身に付く。これから新入生が自問を始めるだろうが，先ず，自問とはどんな目的でどのように行うのかしっかりと理解してもらったうえで，活動を始めるべきだと考える。（後略）」「（前略）自問をやっていなかったら僕は受験勉強をおろそかにして志望学校を受験することすらできなかったのかもしれない。昔の僕は意志力がそうとうなかった。（後略）」「私は，自問をしてきて初めて，他人のことを考えて行動する，ということが，できるようになりました。（後略）」

3）自問清掃の実践

松本市立Ｃ中学校は自問教育を教育の基盤，柱としている。同校「グランドデザイン」の図によると，自問教育が教育目標の土台に位置付けられ，①自問清掃実施，②自問ノートの記入，③自己変容の充足感・満足感，④道徳や集会活動との連携，⑤自己の行為の見直しと実践への動機づけ，⑥自問集会とされている。また，自問教育を通して学校教育目標の「学ぶ心」「思いやる心」「鍛える心」を磨き，自立する生徒に到達する形となっている[44)]。

当日は清掃が始まる前に学校を訪れ，清掃担当の教員に聞き取り調査を行った。

チャイムと共に生徒たちは大教室に全員が集合して床に座り，無言で担当の先生の話を聴いていた。その後，黙ってしばらくうつむき，自分と向き合う黙想（自問）を行ない，各自ばらばらに立ち上がり，教室，廊下，職員室など，各自の清掃場所に向かっていた。清掃担当の教師によると，「自問」の結果意志の確認ができた生徒から清掃に取り掛かる，とのことであった。15分間，各々の場所で清掃に取り組んでいた（写真３）。

写真３　自問が終了し立ち上がる生徒
（黒板前には既に清掃を始めている生徒がいる）

清掃終了後は各教室に戻り，自問ノートの記入を行っていた。清掃担当教師から実際の生徒の自問ノート「あゆみ」を見せて頂くと，１日半ページが設けられ，上半分はその日の学習について，下半分が自問活動について記入する形式になっていた。生徒は清掃前に担当の先生から聞いた話について，自分なりに考えたことを率直に綴っていた。それに対し，担任教師が毎日欠かさず赤字でコメントを返していた。

⑸　福岡市立Ｅ中学校の学校清掃

1）Ｄ中学校清掃担当，生活指導教師への聞き取り調査

福岡市教育委員会の教育方針は「あいさつ・掃除，自学，立志」である。

清掃担当教師，生活指導担当教師によると，Ｅ中学校は，生活指導が困難な地域に立地し，かつて荒れた学校だったが，平成19年の人事異動をきっかけに実践を始めるようになった。まず，命の大切さを教えるために，学校内に手作りの庭を造った。花壇を綺麗にするために始業前に教師が清掃を行っていたところ，自然とクラブ活動で朝練習に来た部員たちが教師の活動に加わって一緒に取り組むようになり，清掃が広がった。現在でも，中庭は女子バレー部，池は男子ハンドボール部，中庭花壇は美術部が清掃を行っている。

Ｅ中学校は教育の３本柱を「もりもり・もくも

く・ぼちぼち」としており，３本柱の１つ「もくもく」が無言清掃である。生徒会オリエンテーションにおいて生徒たちが生徒会の取り組みとして動画を使って清掃の説明を行っている。生徒たちは小中連携により，小学校から無言清掃の取り組みを行っているが，言葉だけではわかりにくいところもあるので，さらに教師が実際に実践しながら示している。

Ｅ中学校の毎日は教師の朝清掃からスタートし，綺麗な環境で生徒たちを迎え入れている。教師の「モデリング」がとても重要であり，教師の姿が生徒の姿に反映される，教師は最大の教育環境である。

清掃の取り組みを始めてから，生徒指導面での困難が軽減，地域住民との関係がよくなり，生徒たちは学習面，クラブ活動により積極的に取り組むようになった，とのことであった。

２）Ｄ中学校における無言清掃の実践

清掃担当教師によると，普段の清掃は，始業前の８時38分から48分までの10分間で実践する。始めの会は，各自黙想，目標を代表生徒が言い，廊下に並んで，「お願いします」と声を合わせて挨拶をする。その後各自無言で膝をつき，廊下，教室の床などを雑巾がけする。ほこりがたまりそうなところも生徒たちが気付いて清掃を行い，普段からカバン棚の整理や清掃なども行う。自分たちで使っているところだからと男子は素手で便器の掃除を行う。クラスごとに掃除場所を決めている。

チャイムが鳴ったらグループごとに反省会を行う。目標と反省，振り返り，評価が発表される。発表を聴いていたものは大きく拍手する，とのことであった。

訪問当日は前述のように緊急事態宣言時で生徒は登校していなかったが，教師が学校清掃を実践していた。清掃前の職員室の打ち合わせでは，教師が大きな声で発言を行っていた。その後玄関や中庭，学校の周辺など各自の担当場所に散らばり，大変熱心に無心に清掃を行っていた。職員室前の熱帯魚の水槽から校庭の隅，学校周りの道に至るまで，ごみはもとより草一本もなく，大変綺麗で清掃が行き届いていることが一目でわかるほどであった。

４．考察

児童生徒による清掃の実践を視察した４校の清掃活動の様態は多様であり，一律に「無言清掃」と括って論ずることが難しいことが分かった。Ａ，Ｂ小学校の無言清掃は，地域で伝統的に，日常の「当たり前のこと」として行われていた。今回の清掃活動の調査を依頼した際，対象校の教師には調査の目的が何か理解できなかった，とのことであった。２校の実践方法は縦割り班編成で班長を決めて班長会を行うことなど類似点もあったが，ローテーションの期間や評価の方法など異なる点が多く，清掃担当になった教師がその都度の学校の状況に応じて工夫して実践を継続していることがうかがえた。Ｄ中学校では「自問教育」といった理念に基づいて清掃が実践されていた。強制するのではなく，生徒が自身の意志により清掃活動を始めるまで待つ，清掃は目的ではなく教育の手段という立場をとっていた。Ｅ中学校では「モデリング」を重視し，教師自らが積極的に清掃にかかわる姿を生徒に見せることで，生徒の実践を促していた。

Ａ小学校校長は自身が中学生の1970年代半ばころから無言で清掃しており，竹内隆夫の実践は1974年，自問教育の会が始まったのはその翌年であるので，竹内が考案した自問教育が宇和島市の小・中学校に影響を及ぼしたとは考えにくい。Ｅ中学校も自問教育とは関連がなく，各学校は独自に無言の清掃活動を発展させてきたと言える。1974年に学校保健文部大臣賞，翌年健康優良校日本一に選ばれた山口県徳山市（現周南市）立徳山小学校では，健康教育の目標の１つを「掃除に打ち込む」とし，「掃除中は沈黙を守り，一言も話してはならない」との規則を設けていた[45)46)]。この取り組みも時期が重なるが，1970年代半ばになぜ，どのような経緯で無言清掃が全国に広がったのかは不明である。

「無言」に関しては，Ａ，Ｂ小学校では厳しく「無言」を強いるのではなく，必要があるときは声を出してもよいと指導していた。清掃を徹底して効率的に行い学校を綺麗にすることを目的とし「無言清掃」であることを意識していなかった。Ｄ中学校の自問清掃では，話しかけることは相手に迷惑になる行為であり，「相手を思いやる心」が生じた結果，自然と「無言」になるとのことであった。

「労働の強制」といった観点では，小学校では，相互評価により賞を出すことにより清掃へのモチベーションを保ち，楽しく活動できる工夫を行っていた。また，Ｄ中学校では「自問教育」という理念を用い，Ｅ中学校では教師が「モデリング」を行っていた。両校とも労働（清掃）を「強制」せず自発的に行う工夫が見られた。

学校清掃の教育効果に関しては，Ａ，Ｂ小学校では特に検証を行っていなかったが，積極的に清掃に取り組むことで学校や教室が美しく保たれ，帰属意識が向上するとともに，児童の活気や学級経営にもつながっていることがうかがわれた。Ｄ中学校の自己評価には，自問清掃を通して様々な力が身に付いたことが示されていた。また，Ｅ中学校では生徒指導，生活指導面で大きな効果が得られたとのことであった。ただし，今回は実践者からの聞き取りなどから教育効果を推察したが，今後は客観的な方法を

用いて無言清掃の教育効果を測る必要がある。

前述のように，無言清掃は，「無言を強制して働かせる管理教育」という批判が多いが，今回の学校ではいずれもそれに該当するような様子は見られなかった。D中学校では生徒が普段使わない職員室を清掃する様子が見られたが，生徒の「意志力」による実践となれば，それも強制ではないことが推察される。また，集中して実践するために大変綺麗になるが，清掃時間は15分以内であるので，「コミュニケーション」を阻害するまでのものではないと考えられる。ただ，批判されているように，清掃は「心を磨く」といった言葉は，前述の戦時体制下の教育を彷彿とさせる。日本の学校清掃は仏教との関連も考えられるが，学校清掃の目的を「心磨き」として精神性と結びつけることは適切ではなく，正に管理教育につながるものであろう。

今回の５校の調査から得られた清掃活動の課題は，いずれの学校においても教師の負担増である。新入生や教師への説明，計画や管理，班長会の運営など，清掃担当教師の負担が大変大きいことが推察された。また，そのほかの教職員も毎日の清掃や反省会の指導を行う必要がある。D中学校ではクラス全員の生徒に対する反省ノートへの毎日の赤ペンによる返事や，毎日ではないものの自問清掃を始める前の生徒への話を準備しなければならない。E中学校の教師は始業前に自らが清掃を行っていた。C中学校教頭（自問教育の会事務局長）は，指導者不足から，地域での取り組みが減少している，と話していた。働き方改革の影響も考えられる。一定の教育効果を得るためには，それに見合った準備や運営が必要であり，大きな課題であろう。

５．まとめと今後の課題

近年管理教育との批判が強まる無言清掃の現状と課題を明らかにするために，小・中学校５校への訪問調査を行った。その結果，全国の多くの小・中学校が無言清掃を実施しているが，一括りに「無言清掃」として論ずることのできない多様な実践があることがわかった。今回の調査では，歴史的に継続して実施している例，「自問教育」という一定の理念に従って実践する例，学校の「荒れ」の解決のため取り組んだ例が明らかとなった。いずれも児童生徒の自主性を重んじており，管理教育との批判にはあたらなかった。しかし，学校をあげて熱心に取り組まれており，教師の負担が大きいことが明らかとなった。

今後は，「無言清掃」の実態をさらに明らかにするとともに，1970年代半ばに無言清掃が全国に広まった経緯についても究明したい。

文献

1）朝日新聞 DGITAL「西本願寺と東本願寺，恒例のすす払い　昨年に続き規模は縮小」（2021年12月20日配信）
https://www.asahi.com/articles/ASPDN3RP2PDNPLZB003.html（入手日：2021年12月20日）

2）鍵山秀三郎（2005）『掃除道　会社が変わる・学校が変わる・社会が変わる』PHP 研究所

3）産経新聞 HP「世界に広まる日本サポーターの「ゴミ拾い」セネガルや３か国サポーターも会場を清掃」（2018年６月27日配信）
https://www.sankei.com/sports/news/180621/spo1806210026-n1.html（入手日：2021年12月20日）

4）毎日新聞 HP「教育専門家が見る　進化し続ける大谷翔平　四つのルーティン」（2021年11月19日配信）
https://www.mainidhi.jp（入手日：2021年12月20日）

5）有馬頼底（2013）「壱　掃除の作法　澄み切った心をつくる」『「雑巾がけ」から始まる　禅が教えるほんものの生活力』集英社，11－38

6）石井均（1978）「学校掃除の歴史」『学校掃除　その人間形成的役割』学事出版，93－123

7）岩田高明（2018）「明治初期の私塾における掃除の分析」『児童教育研究』27，29－35

8）石井均（1976）「明治以降の小・中学校における学校掃除の研究」「広島大学教育学部紀要　第一部」25，49－59

9）浅見美之（2010）「近代以降における学校掃除の一考察―大正期における学校掃除議論をめぐって―」『上越社会研究』25，31－40

10）前掲書６）

11）文部科学省（2008）「第６章特別活動」『小学校学習指導要領』

12）文部科学省（2017）「第６章特別活動」『小学校学習指導要領』184

13）文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説特別活動編』

14）文部科学省（2018）『学校環境衛生管理マニュアル　学校衛生基準の理論と実践　平成30年度改訂版』，106

15）福岡市 HP「福岡市の教育施策」
https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/23520/1/R3fukuokashinokyoikusesaku.pdf?2021042210442（入手：2021年12月20日）

16）山広康子（2005）『やればできるんよ・女性校長・学校改革1000日』ダイヤモンド社

17）鍵山秀三郎他（2019）『トイレ掃除の軌跡　広島から暴走族が消え，荒れた学校が消えた』致知出版社

18）表真美（2020）「学校清掃と生徒指導―「福井掃除に学ぶ会」の調査から―」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』34，23－40

19）岩瀬直樹（2011）「教室リフォームプロジェクト」『「最高のチーム」になる！クラスづくりの極意』農山村文化協会，16－26

20）岩瀬直樹（2019）「教室，学校全体を生徒にとってもっと居心地のいい空間に」『シンプルな方法で学校は変わる』，みくに出版，219－223

21）吉田順（2019）「教室がすぐに汚くなるがどうすればいいか」『荒れへの不安がにわか指導につながる』学事出版，162－169

22）吉田順『学級経営17の鉄則』学事出版

23）志水宏吉ほか（2014）「無言清掃」『福井県の学力・体力がトップクラスの秘密』中公新書ラクレ，114－118
24）教育ジャーナル2015　10月号「第２特集学校を訪ねて　無言清掃。その徹底ぶりから見えるもの」34－37
25）米村佳樹ほか（1978）「第六章世界の学校掃除」沖原豊編著『学校掃除　その人間形成的役割』学時出版，123－136.
26）沖原豊ほか（1977）「各国の学校掃除に関する比較研究」『日本比較教育学会紀要』３，37－46
27）杉原里美（2019）「トイレ掃除で心を磨く　広がる「無言清掃」」『掃除で心は磨けるのか　今学校で起きている奇妙なこと』筑摩書房
28）ハフポスト HP「運動会の巨大ピラミッドに拍手する日本人の人権意識はおかしい」健保学者・木村草太さんに聞く“子どもの守り方”（2019年１月19日配信）
https://www.huffingtonpost.jp/2019/01/16/sota-kimura-interbiew_a_23643888/（入手日：2021年12月20日）
29）西日本新聞 HP「学校のハテナ（１）掃除　なぜ黙々とするの」（2017年５月９日配信）
https://www.nishinippon.co.jp/item/n/327076/（入手日：20210年12月20日）
30）朝日新聞 Digital「ひたすら「無言清掃」小中学校で広がる　どんな意味が？」（2020年２月16日配信）
https://www.asahi.com/articles/ASN2G4D05N2GPTIL00V.html（入手日：2021年12月20日）
31）北村上（2019）「無言清掃と「藩閥」意識」『教育』887，77－81
32）苫野一徳（2019）「「無言清掃」「無言給食」？」『ほんとうの道徳』トランスビュー，138－141
33）前掲書12）「第２章各教科　第８節家庭　第２各学年の内容　１内容　B 衣食住の生活」138
34）文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説家庭編』61－62
35）表真美（2021）「学校における「家庭の掃除」に関する教育の歴史的変遷―高等女学校家事科検定教科書を資料として―」『日本家政学会誌』72，260－271
36）前掲 HP 23）
37）多治見市立小学校 HP「ひびき」（2021年１月29日配信）
http://school.city.tajimi.lg.jp/kyouei/wp-content/uploads/2021/01/f373a74145d6855303dc49258e4a4841.pdf（入手日：2020年12月20日）
38）竹内隆夫（1991）『自問活動のすすめ―自ら生き方を問う子どもたち』第一法規出版
39）吉川忠司ほか（2000）「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開（１）」『信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要教育実践研究』１，163－179
40）平田治（2018）「独創的学校掃除教育プラン」「自問清掃の特徴」「独特の指導方法」『これからの学校掃除　自問清掃のすすめ』一莖書房，204－240
41）平田治（2012）『学校掃除と教師成長：自問清掃の可能性』一莖書房
42）自問教育の会 HP
http://www.jimon.3zoku.com/（入手日：2021年12月20日）
43）平田治（2005）『子どもが輝く「魔法の掃除」』三五館
44）松本市立中学校 HP
https://www.city.matsumoto.nagano.jp/kodomo/gimukyoiku/shochu/junior_high_school/j_metoba/mokuhyou.files/R02gra（入手日：2021年12月20日）
45）前掲書６）二宮皓「学校掃除は是か非か」226－245
46）山本宏樹（2019）「無言清掃はどこからきたのか」『教育』887，82－91

謝辞

大変お忙しい中，本調査にご協力いただいた小・中学校の先生方，児童・生徒の方々に厚く感謝致します。

付記

本研究は，京都女子大学宗教・文化研究所個人研究助成を受けて行った。